可視化情報学会 仙台講演会 の開催にあたって

可視化情報学会会長 宮代 裕

Message of the President at the Opening of Sendai Meeting

Hiroshi MIYASHIRO

仙台講演会の開催にあたり、挨拶する機会が与えられたことを嬉しく思います。

ご承知のように、可視化情報学会が定期的に開催する講演会には、夏に東京で開かれるシンポジウムと毎年場所を変えて行われる地域講演会があります。ここ仙台では、ちょうど10年前の1984年にも開催され、今度が2回目で、まさに學術の府にふさわしいと思います。

仙台は東北地方の学問の中心であり、講演会場は「^{ごんりょう}艮陵」と東北大学にちなんで名づけられた会館ですから、発表と討論が熱心に行われ、大きな成果が上がり、会員相互の懇親も深まる、と期待しています。一般講演が50編、特別講演として東北大学 鳥羽 良明名誉教授の「風波の流れの可視化」と東北大学 福田 寛教授（加齢医学研究所）の「脳機能の可視化」、二つの見学会「加齢医学研究所の超音波顕微鏡」、「流体科学研究所」、と学際的な企画になっています。講演会の翌日には、講習会「流れの可視化診断」が流体科学研究所で開催されますが、講演会と講習会の併催は、何年も前から話題に上っていたもので、本学会としては今回はじめて実現のはこびになりました。高く評価したいと思います。

この杜の都を、私も何回か訪れたことがあります。その多くは、有名な高速力学研究所の時代で、ほとんどが勉強のためでしたが、いくつか楽しい思い出もあります。キャヴィテーションのシンポジウム（1986年）では、敬愛する Prof. S.P. Hutton の特別講演の司会をする機会に恵まれました。ハットン教授の美しい明晰な英語を聞いていると、講演の内容が目の前に浮かんできて、話の可視化の雰囲気^{きふき}にひたっている気分になるのです。

最後になりましたが、仙台講演会の企画、開催に多大のご尽力を賜った実行委員会*の高山 和喜委員長（東北大学教授）はじめ委員および関係の皆様に、あつくお礼を申し上げます。

* 仙台講演会実行委員会（東北大学の構成員により組織）：高山和喜（委員長；流体科学研究所）、庵原昭夫（幹事；流体科学研究所）、稲村隆夫（工学部）、井上 督（流体科学研究所）、川村 宏（理学部）、小濱泰昭（流体科学研究所）、佐宗章弘（流体科学研究所）、佐藤英一（医学部）、宝沢光紀（反応研究所）、仁田新一（加齢研究所）、 円山重直（流体科学研究所）。